



全国の輸血を必要とする患者さんに必要な血液を必要な時に届けることはとても重要です。生命の維持に欠かせない血液を安定的に供給するための施策は血液事業の中心施策のひとつです。

さらに、このような安定供給の観点から、また、患者さんへの血液を介する感染症や副作用等を減らすため、血液製剤の適正な使用が求められているのです。

血液製剤は病院など医療機関という限られた場所で使われており、また、血液製剤の種類によっては、特定

の疾患を持つ患者さんのみに使用されているものもあります。このようなことから、実際には、献血によってどのように人が人を助けているのかは、一般の人からはなかなか見えにくいものです。

ここに紹介するのは、小児がんと闘った4歳の男子のお話です。輸血のことを「アンパンマンのエキスだ」と言って、人から血液をもらうことに感謝し、病氣と果敢に闘ったことが綴られています。

血液事業に携わる関係者は幅広く、国、都道府県や市町村、日本赤十字社をはじめ、血液製剤の製造販売業者、製造業者、販売業者、実際に製剤を使用する医療機関、患者の方々、そして、献血に協力して下さる企業やボランティア、国民のみなさん。このように多くの人々の協力により、血液事業は成り立っています。ひとりでも多くの人を救いたい、そんなひとりひとりの思いがこれからの血液事業を発展させていくのです。

# いだ献血

## 「アンパンマンのエキス」

### 輸血を支えているのは 善意の献血です



この成分製剤（輸血）

「献血してくれた人たちにありがとうの気持ちを伝えたい」と、小児がんを闘った4歳の男子のお母さんが日本赤十字社の献血ルームにメッセージを残しました。病氣や事故の治療に使われる血液は、献血によってまかなわれています。献血者が減少する傾向にある近年ですが、その善意がなければ、日本の医療そのものが成り立たなくなってしまうという過重ではあります。

#### 過酷な治療を支えた輸血

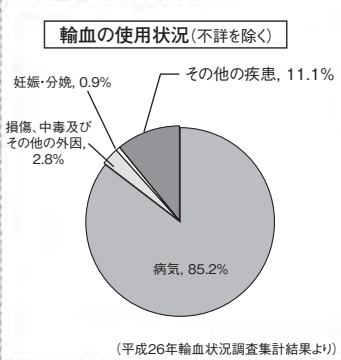
##### ある男子の闘病記

4歳の男の子として、10月1日、生まれました。生後1カ月に及ぶ間、肺炎を繰り返して、なかなか元気がありませんでした。生後3カ月に及ぶ間、肺炎を繰り返して、なかなか元気がありませんでした。生後3カ月に及ぶ間、肺炎を繰り返して、なかなか元気がありませんでした。

「献血してくれた人たちにありがとうの気持ちを伝えたい」と、小児がんを闘った4歳の男子のお母さんが日本赤十字社の献血ルームにメッセージを残しました。病氣や事故の治療に使われる血液は、献血によってまかなわれています。献血者が減少する傾向にある近年ですが、その善意がなければ、日本の医療そのものが成り立たなくなってしまうという過重ではあります。

#### がん治療にもっとも必要とされる輸血

交通事故など不慮の災害などの時に輸血は必要です。一般にそのイメージが強くありますが、実際血液の使われ方では意外にも事故は少なく、もっとも輸血が必要な場面は病気の治療です。病気のうち半分ががん治療で、残りの半分ががん以外の病気の治療に使われています。



#### 患者さんに血液が届くまで

##### 献 血

献血できる場所は、献血ルームや献血バスなど、全国にたくさんあります。



献血ルーム



献血バス

##### 血液センター

###### ①検査

血液型や、ウイルスが混入していないかを調べます。



###### ②製剤

血液は成分ごとに分けられ、目的にあった血液製剤がつくられます。



###### ③保管

製剤の種類に応じて、適切な温度で保管しています。



###### ④供給

365日24時間いつでも病院へ届けられるように、準備しています。



##### 医療機関

血液を必要としている患者さんのもとに届きます。献血で助かる命はたくさんあるのです。



献血は、いのちを繋ぐボランティアです